

早期体験学習「救命応急手当」で使用するビデオ教材の改良とその効果

○伊藤 弥生¹, 田中 久美子¹, 森 美佳子¹, 石川 誠司¹, 藤原 洋一¹, 深田 守¹
(¹京都薬大)

【目的】本学では、人の生命の尊さを理解することを目的として、早期体験学習の項目のひとつに「救命応急手当」を設けている。また、実技終了後には各学生に対して「普通救命講習修了書」を交付することで、医療人としての自覚を促している。しかしながら、学生の理解度・実践度が、毎回均一なものになっているとは言い難い。今回、前年度まで補助教材として使用していた市販のビデオ教材を改良し、それに伴い授業の構成を再検討したので、報告する。【方法】授業で使用している救命応急用の人体モデルを使って、ビデオ教材を新たに作成し、実技講習に取り入れた。これに伴い、ビデオ教材を有効に活用できるよう授業構成を見直しし、各項目(「人工呼吸」、「胸骨圧迫」、「AED」など)のビデオ教材を学生に閲覧させ、続いて実技を行うように変更した。これらの取り組みについては、学生と担当教員を対象として、PC および携帯電話からアクセス可能な Web アンケート調査を行い、評価した。【結果・考察】学生のアンケートの結果から、「今後、救命応急手当を必要とする現場に居合わせた時、実践できますか？」との質問に対して、98%が「はい」または「少しできる」と回答した。また、「ビデオ教材は理解に役に立ちましたか？」との質問には 98%の学生が「大いに」あるいは「少し」と回答した。一方、教員の結果から、「各項目の開始時にビデオ教材を見せてから実技を行ったのでやりやすかった」、「昨年と比べて実技に十分時間をかけることが出来た」という意見が多かったことから、担当教員の負担をある程度軽減しつつ、学生に対しては十分な学習効果が得られたのではないかと考えている。今回の結果をもとに、さらなる改善を目指していきたい。